



SEA TO SEVEN SUMMITS

～「のすっ子冒険家」吉田^{さと}智輝^きさんの挑戦～

本号では、世界7大陸の最高峰に標高0mの海岸線から徒歩で登るといふ、とても過酷な挑戦を続ける吉田智輝さんを紹介します。

全て達成すれば、世界初。吉田さんは現在7つのうち5つに挑戦し、4つの踏破（コジオスコ・エルブルス・キリマンジャロ・アコンカグア）に成功しています。

海から500km以上移動して、やっと視界にとらえたヨーロッパ最高峰。まだまだ頂上は遠く高い（ヨーロッパ大陸）

挑戦を始めたきっかけ

大学院時代にアフリカ最高峰のキリマンジャロに登頂するなど、以前から国内外を問わず山登りに親しんできました。シンガポールの金融機関に勤めていた時、かつてオーストラリアの登山家が、アジア最高峰のエベレスト山頂まで、インド・ベンガル湾から約1,200kmを歩く「SEA TOSUMMIT」というやり方で登頂したという記事を目にしました。しかも、登頂したその日に僕が鴻巣で生まれたと知り、運命的なものを感じました。

そこで、「SEA TOSUMMIT」を世界7大陸の最高峰でも達成することができないものかと考え、この冒険を思いつきました。



冒険は苦難の連続

地域によっては言葉が通じず、ジェスチャーでの対話が求められます。そんな中で、宿がなく人に尋ねたというのはとても大変でした。基本的に親切な方が多く、中には「車に乗せてあげる」と声をかけてくれる方もいるのですが、「人力での挑戦だから」と断らなければならぬ時は辛いです（笑）。

また、登山中は「高山病」を避けるため、ベースキャンプまで荷物を上げた後、登ったり降りたりを繰り返す「高度順応」が必要になります。暑さや寒さなど地域によって異なる環境で、山を登るといふのは苦難の連続です。



▲大冒険の「相棒」





灼熱！酷暑日が続くアフリカの大地を移動中に。パワーの源は現地の人との温かい交流だった（アフリカ大陸）



5,000mの高地で。荷揚げをしながらゆっくりと体を高地に慣らしていく（南アメリカ大陸）



人ひとりいないアラスカの大地。世界最大の熊・グリズリーに遭遇するなど自然の過酷さを味わった（北アメリカ大陸）



全身ボロボロになりながら達成した初めての海外SEA TO SUMMIT。遠征中は毎日フルマラソン相当の距離を移動する（オーストラリア大陸）

「今月からエベレストの
登頂に挑む」

「エベレスト」は言わずと知れた世界で一番高い山です。気温はマイナス30度以下、酸素濃度は平地の3分の1程度と、呼吸をするだけで体の細胞が死んでゆく過酷な世界です。スタート地点はインド・ベンガル湾で、世界最高峰は遙か遠い。1,000km以上の陸地を移動し、海拔0mから8,848mの山頂を目指すことは、まさに大冒険。

また、自分が生まれた日に達成された30年前のエベレストSEA TO SUMMITへの挑戦は、とても感慨深いものがあります。

今回のエベレスト登頂には、約3か月の期間を要する予定ですので、5月から6月頃には市民の皆さんに報告できると思います。

鴻巣市のマスコットキャラクター「ひなちゃん」を持って登頂し、「鴻巣」を世界にアピールしたいと思っていますので、市民の皆さん、どうぞ応援よろしくお願ひします！

プロフィール

- 本市出身で、平成2年5月11日生まれの「のすつ子冒険家」
- 赤見台第二小、赤見台中出身
- 学生時代は、剣道とサッカーに明け暮れる一方、雪国出身でアウトドア好きの母の影響でトレッキングやスキーに親しむ

- フラワーラジオで「吉田智輝のフラワーサミット」（毎週水曜日・22時）放送中。「さまざまな分野でサミット（頂上）を目指す人々と、話に花を咲かせる参加型の番組」がテーマ



▲公式ホームページはこちらから

